

## 特集「環境と人間」について

小川 國治

東亜大学 総合人間・文化学部・文化文明史研究室

E-mail: ogawa@po.cc.toua-u.ac.jp

1962年にアメリカの女性作家（海洋学者）レイチェル・カーソンが『沈黙の春』<sup>(1)</sup>を发表し、化学薬品と農薬に汚染されたアメリカ社会に警告を発したことは、広く知られている。その2年後の春に、彼女は、腫瘍が悪化して死去したが、『沈黙の春』は、人々に公害や環境問題の重要性を気付かせ、8年後の「アース・デー（地球の日）」を呼び起こした<sup>(2)</sup>。そして、国連人間環境会議の開催、国連環境計画の設立などに結実していったことも、周知の通りである<sup>(3)</sup>。

その後、人々の関心が自然保護から環境保護へ拡大し、生態系の崩壊、森林の縮小、耕地の減少と砂漠化、災害の増加、農村の疲弊、都市問題、人口問題、食糧問題、経済と環境問題など、地球規模での活動が行なわれるようになった。この間、人々に意識革命が起こったとも言われている。現在、国連のみならず、様々なレベルで、人々は、環境問題と取り組み、地道な努力を続けている<sup>(4)</sup>。

我が総合人間・文化学部は、幸いにして、多くの専攻を有し、多彩な人材を擁している。そのため、今年度は、「環境と人間」について考えてみることにした。その際、大上段に構えるのではなく、各々の立場（視点）から自由に述べることにした。このささやかな試みは、小さな流れのようなものであるが、やがて大河になることを期待している。

注

- (1) Carson, Rachel, *Silent Spring*, 1962; rpt., New York: Fawcett Crest, 1980（青木築一訳『沈黙の春』新潮社、1964年）。
- (2) 岡島成行『アメリカの環境保護運動』岩波書店、1999年（14刷）。
- (3) 環境庁国際課編『国連人間環境会議の記録』環境庁、1972年。
- (4) 環境庁自然保護局編『自然保護行政のあゆみ』環境庁、1981年。国際環境政策研究会編『環境問題に関する政策・世論形成における国際的な民間組織の役割に関する調査』環境庁、1989年。日本自然保護協会編『自然保護のあゆみ』日本自然保護協会、1985年。沼田真『生態学方法論』古今書院、1979年。今西錦司『自然学の提唱』講談社、1986年。宮本憲一『環境経済学』岩波書店、1989年。宮本憲一『環境と開発』岩波書店、1992年。石弘之『地球環境報告』『地球環境報告Ⅱ』岩波書店、2002年（46刷）。